

1 題材 「日常に溶け込む音楽づくり」

2 教科論と本題材の関わり

教科論にある表現する活動と鑑賞する活動の往還とは、題材全体の中で一体的に捉え、指導することによって実感を伴いながら自己のイメージや感情、生活や社会、音楽文化などとの関わりを見いだすことにつながるものであると考える。本題材は生徒にとって日常生活の中の「歩く」場面を表現する音楽を創作することができるように題材を設定している。生徒は創作していく過程の中でただ音を並べるだけでは学習課題達成には至らないことに気付く。そこで、様々なジャンルの音楽などを聴いていくことによってより自分のイメージに合う音楽表現ができるようになり、自分と音楽とのつながりをより一層深く感じることができると考える。

3 指導観

教材観・単元指導観	生徒観
<p>昨今、デスクトップミュージック（DTM）などの発展や進化により楽器演奏の可否や音楽経験を問わず、誰でも容易に作曲することができるようになってきている。より身近になってきた作曲によって音楽文化とのつながりを一層深め、人の創造性を刺激し高めていくことができる。</p> <p>本題材は、自分で選択したテーマを基に音同士のつながりを試行錯誤しながら音楽を創作していく活動を通して、どのような音楽表現にしていきたいのか思いや意図を明確にしながらか創作を進めることをねらいとする。そこで、「自分の『歩く』を音楽で表現しよう。」という学習課題を提示し、自分自身で参考にする音楽を選択するなどして、その捉えた特徴を創作に生かす場を設定する。音楽を聴いて捉えた特徴を生かしながら、音楽を形づくっている要素の働きを工夫し、自分自身の思いや意図を表現していくことができる点において、本題材は意義深い。</p>	<p>個人情報保護のため、 生徒観は省略しています。</p>

4 目標

- 速度や旋律、反復などの構成上の特徴について、表現したい音楽表現のイメージと関わらせ、旋律や音楽をつくるために必要な条件に沿った音を選択し組み合わせることができる。
- 音や音のつながり方、速度、反復などの構成について知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて捉え、音楽表現を創意工夫して創作することができる。
- 音や音のつながり方、速度、反復などの構成といった、音楽を形づくっている要素の特徴に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作活動に取り組もうとしている。

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>ア 音や音のつながり方、速度反復などの構成上の特徴について理解している。</p> <p>イ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けている。</p>	<p>ウ 音や音のつながり方、速度、反復などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、創作表現を創意工夫している。</p>	<p>エ 音や音のつながり、速度、構成などの要素とテーマとの関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に創作の学習に取り組もうとしている。</p>

6 計 画 (5時間)

次	配時	学習活動・内容	主たる手だて (○)	評価
一	1	<p>1 日常生活にある「歩く」の様々な場면을想像し、個人のテーマを決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「歩く」場面の雰囲気や感情、情景 ・音楽から感じとる雰囲気 ・音楽と場面 (テーマ) との関わり <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><学習課題> 私の「歩く」を音楽で表現しよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「歩く」場面の雰囲気や感情を感じ取らせるために、「歩く」を中心に関連図を書くように促す。 ○ 音楽から感じ取る雰囲気と場面 (テーマ) との関わりを考えさせるために、音楽の雰囲気と画像のイメージが合うのか問う。 	エ
二	3	<p>2 日常生活の中にある様々な音楽の特徴を知り、個人のテーマに沿った音楽を創作する。</p> <p>(1) 自分のテーマに沿った音楽を条件に合わせて創作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音階や音のつながり方の特徴 ・速度の特徴 ・条件に沿った音の選択 <p>(2) テーマに沿って創作した音楽をより創意工夫するために、日常の中の音楽を聴き、創作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面の雰囲気 ・テーマに合う音のつながり方 ・速度の特徴 ・リズムや強弱などの要素の働き <p>(3) 創作した音楽をグループで交流し、再度テーマに合う音楽になるように創意工夫しながら音楽を創作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律や速度、構成などの要素の特徴 ・創作した音楽の創作表現の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音階や音のつながり方の特徴を実感して捉えさせるために、長調や短調やそれ以外の五音音階などの独特な響きをピアノで演奏する。 ○ 速度の違いによって生み出される雰囲気の違いを感じ取らせるために、同じ旋律の速度を変化させたものを提示する。 ○ テーマに合う音のつながり方の視点をもたせるために、教師が例示した創作作品に対する意見を問う。 ○ テーマの雰囲気に合う音楽を創意工夫させるために、日常の中に流れている音楽や映画音楽、世界の様々な音楽のジャンルなどを聴く場を設定する。 ○ テーマに合う旋律の進行や構成上の特徴を創意工夫させるために、テーマと音楽との関わりを視点に交流する場を設定する。 ○ 旋律や速度、構成上の特徴を捉えさせるために、反復や変化による特徴を視点に交流する場を設定する。 ○ 創作した音楽の音楽表現を工夫させるために、どのような工夫によってテーマを表現しているのか問う。 	イ ウ
三	1	<p>3 創作した音楽についての交流を通して、題材の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面 (テーマ) を表現するための創作した音楽の工夫点 ・創作した音楽と曲想との関わり 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音楽の工夫点を見いださせるために、構成上の特徴からまとまりのある作品の共通点を話し合う場を設定する。 ○ 作品とテーマとを関わらせるために、互いに批評する場を設定する。 	ア エ

7 題材を終えた生徒の想定される姿

題材の学習を終えた生徒は、テーマに沿った音楽の創作をする学習で学んだことについて、様々なテーマを音楽で表現することができたと実感している。また、「何気ない日常生活の一部をテーマにして音楽で表現することができる。」や「溢れている音楽はただ音を並べるだけではなく、旋律の進行などの要素を工夫して創作することによってテーマを表現することができる。」といった発言をするなど、日常生活と音楽との関わりを実感し、音楽文化へのつながりを味わうことができている姿をゴール像とする。

8 公開本時についての補足

(1) 実施日

令和6年11月8日（金）4校時 二次の2 音楽教室にて

(2) 主眼

自分自身で選択したテーマに沿って創作するために必要な日常生活の中の音楽や世界の様々なジャンルの音楽を聴く活動を通して、テーマを創作する際にどのように旋律や速度、構成の特徴を生かしていくのか思いや意図をもって創意工夫することができる。

(3) 生徒の学習活動

学習活動	形態	配時
<p>1 前時の学習活動を振り返り、本時に参考にする音楽や創作の工夫する点を確認、把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて 様々な音楽の特徴を生かして 自分のテーマに合う音楽を創作しよう。</p> </div>	一斉	10
<p>2 参考にする音楽を聴いて音楽の特徴を捉え、特徴を生かして創作する。 ＜想定される生徒の活動＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映画音楽などの映像と音楽との関わりが深いものなどから場面を表すための音楽の特徴を捉える。 ・身近な音楽から反復や変化といった構成上の特徴を捉える。 ・様々な音楽のジャンルを聴き、テーマに合う音楽を見つけ、特徴を生かして創作する。 	個 又は 小集団	30
<p>3 本時の活動の成果と次時に向けた課題を整理する。</p>	個	10

(4) 主たる手だて

活動2において、テーマの雰囲気に沿った音楽になるよう創意工夫させるために、映像と深く関連している映画音楽や日常の中に流れている音楽、世界の様々な音楽のジャンルなどを提示して聴く場を設定し、それぞれの聴いた音楽について、旋律や速度、反復や変化といった構成などの音楽の要素を視点にどのような特徴がどのように創作に生かすことができるのか問う。

(5) 想定される生徒の姿

[展望する姿] 活動1において、前時に創作した作品の課題点を明確にして参考にする音楽の種類やジャンルなどを確認する姿。また、活動3において次時の創作に向けた新たな課題を設定する姿。

[行動する姿] 活動2において、必要に応じて様々な音楽の種類やジャンルを聴き、級友と音楽を形づくっている要素を視点にして音楽の特徴について交流しながら、創作する活動に取り組む姿。

[省察する姿] 活動3における振り返りシートの中で、本時に聴いた音楽の特徴から参考にできたことやこれから参考にしたい音楽などを記述し、これからどのような特徴を生かして創作していくのか明らかにすることができる。